

公表

## 事業所における自己評価総括表 (橋岡教室)

○事業所名	放課後等デイサービス辻義塾 橋岡教室			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 11日		～	2026年 1月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	2026年 1月 15日		～	2026年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	人員配置が充実しており、看護師、理学療法士、教員、保育士など、専門資格を要する職員も充実している。また、事業所内での研修実施や、外部の研修会への参加を促すなど、職員のスキル向上を図っている。	全ての職員が利用者の状況や支援について理解し、常に情報を正しく共有できるよう、カンファレンスやミーティングの機会を増やしている。	今年度は外部のAIツールを導入し、より詳細な標準化されたアセスメントツールが利用できるようになったため、今後はこのツールを活かして、職員のスキルアップと支援の質向上を図っていく。
2	広い調理室を利用した調理実習や、積極的な外出活動など、高校卒業後の社会生活を見据えた、より実用的な療育活動を実施している。特に今年度は食育に力を入れており、長期休み中の昼食は給食提供を行い保護者の負担軽減を図ると共に、利用者の偏食へのアプローチも行い、この1年で食べられる物が増えた利用者も多い。	調理実習では同じメニューを定期的に繰り返して実習を行うなど、知識や技術の定着を図っている。また、外出活動では公共交通機関の利用練習を実施、買い物・レジャーなどでは職員相手ではなく子ども同士で楽しめるよう工夫し、地域や学校の友だちと遊びに行った時に困らないよう経験の場を積極的に設けている。	利用者の興味関心に合わせた活動を設定、場合によっては同日に活動内容を複数設定し、自分で選択できる機会を設けたり、利用者同士で誘い合って活動に参加するよう関わりをサポートするなど、コミュニケーション向上や利用者の自己理解や自己決定も促していく。
3	家庭連携・関係機関連携を積極的に実施している。保護者や利用者向けに公式LINEを導入し、気軽に連絡や相談ができる体制を取っている。また、積極的に相談支援や学校、他事業所との情報共有を行い、特に新1年生の受入れに関しては相談支援だけでなく、こども園や児発の訪問を行い丁寧な情報収集を行っている。	モニタリング時期には積極的に相談支援員に来所いただき、実際の療育現場を見てもらうなどより密な情報共有を心がけている。また、利用者の困りごとが発生した際には必要に応じて関係機関に連絡し、特に不登校傾向の利用者に対しては学校との情報共有や連携を丁寧に行っている。	学校によっては直接の連携を断られてしまうケースもあり、どうすれば学校側にも受け入れてもらえるのか検討中で、教育委員会や発達支援課、障害福祉課などへの相談も行っている。次年度は草津市で午前五時間制が始まることもあり、学校との連携がスムーズに行えるよう、各学校に合わせた対応を検討している。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「集団活動」をメインにしているため、個人活動の時間が少なく、30～45分の学習時間のみとなり、イベント中心の土日祝日は学習時間を設けていなかったため個人活動の時間がほとんどない状態だった。	「言語コミュニケーション」「人間関係社会性」の困りごとを主としている利用者が多く、保護者の希望も「対人スキル向上」が主となっているため、個人活動の時間は年々減ってきていた。	個人の時間や空間を必要としている利用者もいるため、土曜や祝日などイベント中心の日でも午前中に学習時間を設けたり、休憩時間を長めに設定するなど、個人活動の時間を確保できるようスケジュールを調整していく。
2	「地域交流の機会の提供」に関しては、機会を設けることがなかなか難しいのが現状である。	学童などとの交流に関しては、それぞれの事業所の利用者だけで人員的にもスペース的にも余裕はなく、また橋岡教室は中高の高学年中心のため年齢層も合わない。「地域に開かれた事業所」としては不特定多数の人を招き入れることでリスクが生じ、利用者の安全確保の面から非常に難しいと考えている。	利用者の安全や安心を確保しつつ、「地域交流の機会」をどのように設けるのがいいのか、他事業所の事例を調べたり、行政の意見を伺うなどして検討していく。また、事業所同士の交流であれば設定しやすいため、積極的に連携していきたい。
3	現在公開されているホームページの情報が更新できておらず、各種マニュアルなどの公開もできていない。	現在ホームページの見直し作業中であり、来年度中にはリニューアルを終わらせ、各種マニュアルなど必要な情報の公開も合わせて行う予定ではあるが、ホームページの作成管理を行っていた職員が退職したことにより、専門知識が不足し手が回らなくなってしまっている。	新たな担当者を決め、ホームページ管理についての技術を勉強中である。現状担当者が一人だけになってしまっているため、サポート役をつけるなど関わる職員を増やしていく必要あり。